

PREVENTION No. 153

平成17年5月19日開催

飲酒運転事故再発予防策と経営者の姿勢

ジェイアール関東株式会社前会長 山村 陽一

1、 ケースからみた飲酒傾向と再発要因

飲酒運転事故惹起者の飲酒傾向をみると、職業運転手で、勤務時間内に酒気帯び運転をした者のほとんどが、問題飲酒者（過去に酒がらみで問題を起した者）かアルコール依存症者といえる。クビになるのを承知で、限界を越えて飲酒するのだから、自己コントロールを失った飲酒者に間違いない。人に勧められて飲み、車を酒気帯びて運転し、事故を起した適量飲酒者もいるが、罰則の厳しくなった改正道交法施行以後は、減少している。

2、 同一企業で飲酒運転が再発する要因

酒を飲まない者、適量飲酒の者は、きわめて特殊な者がおこす事件と考える。運行管理者も現場管理者も特定の間人をマークして注意し、指導効果ができれば安心する。事故防止担当者は、一連の対策が終われば、他の事故防止対策に移る。経営幹部は、全ての対策の実施、責任問題の決着がつけば他の課題にとりかかる。関係者全員が一段落意識で、事件は時間と共に風化する。また安全が前提の運輸業では不名誉な事件を忘れたくない心理がはたらく。加えて、酒に寛容な組織風土があり、アルコール依存症の怖さを知らぬ人ばかりだ。

3、 同一業界で再発するのは？

中小企業では、①経営者や運行管理者が、危機意識をもち、厳しい運行管理をする企業 ②ほとんど運転手任せの企業、がある。前者では酒の臭いがしただけで追放になるが、後者では依存症者が事故を起す場合がある。大企業では、大事故を起さなかった依存症者が温存されていて、依存症の知識不足から、他社の大事件直後であっても発生する可能性は大きい。業界内は、社会的信用を落とした迷惑意識から、忘れたくない心理も働くので注意。

4、 再発防止策の時間的展開の必要性

事件直後は、社会的な批判も強い。何よりも絶対に再発を防止しなければならないので、社員に分かりやすく、世間の納得する、眼に見える、全組織をあげた対策が必要である。緊急的・画一的対策はマンネリ化しやすく、数年後には、風化しがち。依存症者の発見と介入、予備軍への教育など抜本的な、地道な対策は、経営者主導で、現場管理者、人事担当、産業医、保健師、カウンセラーなど、系統の枠を超えたネットワークで取り組みたい。

5、 経営者の姿勢の重要性

どんなに良い業績をあげていても、一度、社会をゆるがす大事件を起せば、企業の存在は危うい。このことを、常に意識しているのが経営者である。部門の役割をこえて総合的な対策を講じられるのも、時代の流れ・人の変化に敏感なものも経営者である。飲酒運転事故は、組織の風土、現代社会の状況に深くかかわっている。組織的に、抜本的な、時代にあった飲酒運転防止対策は、まず経営

者の積極的な姿勢と持続的な意志が必要である。

6、 企業や公的機関の社会的責任の認識

企業や公的機関が採用し、教育・養成・訓練した社員が、飲酒運転事故を犯し、社会へ被害をもたらせば、組織責任は大きい。特に、依存症者や予備軍は、組織の飲酒に寛容な風土に生まれ、温存され、病状が悪化、事件を起すケースが多い。処分のみで治療せず社外に排除するのは、問題を社会へ転嫁する無責任な行為だ。飲酒運転防止は、社会全体が取り組むべき重大問題であり、企業や公的機関は率先して解決に努力すべき責任がある。

7、 飲酒運転再発防止に必要なネットワーク

飲酒運転事故再発防止には、

- ① 組織にとっての重要性・具体的行動目標・基礎的知識についての関係者の共通認識
- ② 日常的管理の徹底、健康管理と組み合わせた指導、危機介入など専門的技術の結集
- ③ 各種施策に対する強い継続的な実行意欲喚起と支持 が必要である。

さらに関係者は、現代社会の組織風土・各種会合では禁酒が困難なこと、アルコール依存者の発見や介入が容易でないこと、酒支配から自由を取り戻す創造的な努力が必要なことを常に意識し行動すべきである。このため、関係者をつなぐコーディネイター役として、アルコール関連問題に詳しく、経営幹部、人事・厚生部門、産業医など保健部門とも連絡をとれる人材を育成し配置すると共に、部外諸団体と連携を強化し、情報交換・講演会・研修への参加など関係者の意欲向上にも努めたい。

8、 すぐにでも取り組める身近な防止策

飲酒運転が犯罪であり絶対にしてはならないとの「自覚の促し」に加えて、飲まない人、酒を提供する人、医師、教育者、経営者、行政、酒害防止団体が協力して、誰でも参加できる防止策を、身近なところからトップが率先して実行したい。

- ・ 酒が飲めない人、飲んではいけない人へ、酒を絶対すすめない飲酒儀礼の確立。
(注ぎあわない、堂々と断れる雰囲気づくり、乾杯の仕方、粋な飲み方・・・)
- ・ 「酒を飲めば運転禁止」の鍵は酒で解かれる。飲まない人が、飲ませるな、の徹底。
- ・ アルコール依存症者（予備軍含む）へ飲ませた人は、「飲ませた方が犯罪者」と啓蒙。
- ・ 飲酒場所での運転者の明示。飲まない人が楽しみ、割り勘負けしない会合の工夫。
- ・ 飲酒は、糖尿病、高血圧、肝臓病の原因。患者へ節酒でなく禁酒の指導を医師へ徹底。
- ・ 未成年飲酒の恐ろしさや女性の依存症になりやすさ・妊娠時禁酒の職場での啓蒙。
- ・ 飲酒運転者への、再発防止プログラム提供（依存症教育、断酒Gへ参加、被害者の声）
- ・ 酒無しでおいしい料理を楽しめる店の推薦・指定、など飲酒文化の再構築。

9、 悲惨な飲酒運転殺人事件は、現代社会への警告

飲酒運転による悲惨な事故は、酒が大量生産され、安く手軽に飲め、飲酒欲求をかきたてる一方車利用が不可欠な現代社会が、旧態依然とした飲酒習慣・儀礼・商慣行を保持していることへの痛烈な警告である。単に禁止・処罰だけの対応では勝ち目はない。米国の禁酒法が証明している。新たな飲酒文化を創造することが大切だ。企業や公的機関のトップは組織責任者として、また、それぞれの立場の人は、自らの仕事・立場から、自分は何ができるかを考え、防止策に取り組むべきである。